

〔植物ニュース〕

塩尻市のヒマラヤスギと北アルプス種池のミズバショウ

横内 文人 *

1. ヒマラヤスギ *Cedrus deodara* Loudon は、ヒマラヤシーダーとも呼ばれ、各地の公園や学校等に観賞用に植え付けられている。このヒマラヤスギの野生品を見出したので、報告する。

ヒマラヤスギは、ヒマラヤ、アフガニスタンを原産地とする常緑高木で、樹高は 20 m にも達する。枝はよく下垂する。葉の長さは 25 ~ 50mm、厚みと高さは同じ位である。球果は長さ 7 ~ 10cm で、先は円形である。

塩尻市を通過する JR 中央西線の両側には、ヒマラヤスギの幼木が多数生育している。線路沿いの斜面等には、100 m の間に 31 本が生育していた。線路の東側には 26 本、西側には 5 本であった。線路の西側にある 1 本を計測してみると、樹高 1.7 m、根回り 9.8cm であった。これらの幼木の種子の供給源は、中央西線の東側にある昭和電工塩尻工場である。同工場には、ヒマラヤスギの高木が多く見られ、工場周辺を取り囲んでいる。

ちなみにヒマラヤスギが多く、有名な場所は、松本市の「あがたの森公園」である。ここは信州大

学文学部の前身であった旧制松本高等学校の敷地である。

「あなたと博物館」No.150 (平成 20 年 3 月 1 日発行) によると、当地には大正 14 年 7 月の購入を筆頭として昭和 14 年 1 月までの間に合計 135 本のヒマラヤスギを植栽したという。苗木の大きさは 2 尺 (約 60cm) ~ 10 尺 (約 300cm) であった。このうち最も大きい 10 尺のヒマラヤスギの単価は 17 円だったという。購入した大正 14 年当時の用務員さんの 1 カ月分の給料は 15 円だったというから、いかに高価な苗木だったかと思われる。

「あがたの森公園」には、ヒマラヤスギの大木は多いが、幼木を見ることは全くなかった。その理由として①清掃が行き届いている、②人々の踏み付けが多いこと等が考えられる。

2. ミズバショウ *Lysichiton camtschatcense* (L.) Schott は、主に低山帯に見られる植物である。このミズバショウが、北アルプス種池 (標高 2520 m) の縁に 2 株生育していたので報告する。

種池の周辺は、高山帯のハイマツ群落であり、本来のミズバショウの生育地とは大きく掛け離れている。誰かの植栽かとも思い、種池山荘の関係者に問い合わせたが、新しい情報は得られなかった。

大町市史自然編の植物目録には、ミズバショウの項に「低山帯下部、湿地、散生、居谷里、黒沢 (植栽)」と記されており、種池の産は記載されていない。



写真1 塩尻市のヒマラヤスギ
(2008 年 6 月 26 日)



写真2 種池のミズバショウ (2008 年 8 月 12 日)

* 横内 文人 〒399-7402 松本市会田 110